

好きの瞬間

宮崎県立延岡高等学校2年（宮崎県）

黒木 菜音

「茶道部にも入っていたんだ、どうして茶道部にはいったの？」と私はよく聞かれる。なぜなら私は運動部と茶道部を兼部しているからだ。私はいつも「抹茶が好きだから」と答える。最初は本当にその理由で入った。だけど今はそれだけではない。私が抹茶や茶道をさらに好きになったきっかけが2つある。

1つ目は去年の10月に延岡高校に来たタイの留学生に開いたお茶会だ。みんなで茶道について英語で書かれた本を読んで道具1つ1つが英語で表されることに驚いた。お茶会当日タイの生徒は初めて見る抹茶に少し戸惑っているように見えた。しかし、一口飲むとみんな笑顔になっていった。タイの言葉はわからなくても「美味しい」と言っているのがよく伝わってきた。今年もタイの生徒が来る予定だ。去年は先輩方が英語で説明したことを今度は私たち2年生がしなければならぬ。不安もあるが1人でも多くのタイの生徒に茶道について知って好きになってもらえるように準備していきたい。そして、タイの生徒だけでなくもっとたくさんの世界中の人に茶道を好きになってほしい。

2つ目は学校の文化祭でのお茶会だ。1年生の時は入部したてで、訳も分からず先輩や先生の指示で動いてお菓子やお茶を運んで終わってしまった。2年生になった今年のお茶会では半東とお点前をした。私は先輩が亭主の時に半東をした。普段はあまり緊張しないタイプだが、自分でも驚くほど心臓がドキドキしたことを覚えている。先輩方や同級生の子から頑張れと背中を押してもらい、無事半東の仕事を終えることができた。そして自分がお点前をする番が来た。人生で初めて亭主を務めるため、この文化祭でお点前をすると決まってから普段の稽古にも力が入り、家でも稽古するようになった。そして、お点前を始めようとしたとき自分の手が震えているのがわかった。だけどお点前を始めてからは緊張も忘れていた。考えなくても体が覚えていて勝手に手が動く感覚でお点前をしていてすごく楽しかった。お点前が終わったあと、お客様として来ていた友達から「美味しかった」と言われ嬉しくなった。この時茶道をしていてよかったと強く思った。

この2つのきっかけがあり私は茶道が大好きになった。自分が点てたお茶で多くの人が笑顔になる瞬間、「美味しかった」と言ってもらえたときはもちろん、茶道部のみんなと稽古している時間、お茶会前でよいおもてなしをするために掃除をするときもどの瞬間も私は好きだ。この好きの瞬間を一秒でも長く感じていられるように、これからも日々の稽古に励みずっと茶道に関わっていきたい。